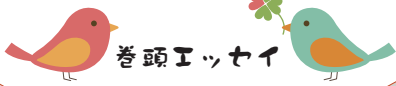




AGULI

* 大学図書館とコレクションの話	近藤 泰弘	P. 2
* 全集について	佐藤 泉	P. 3
* 三度美味しい本	小林 絹	P. 3
* 大学生活と図書館	吉田 健三	P. 4
* わたしの進路を決めた1冊	佐藤 智晶	P. 4
* 「国語の勉強方法を教えてください」からの始まり	大石 進	P. 5
* 図書館と本と私	開澤 栄相	P. 5
* こんなに便利!! AURORA-Search		P. 6
* 学部・学科研究室紹介		
青山キャンパス ～総合文化政策学部 ACL図書室～		P. 7
相模原キャンパス ～体育研究室～		P. 7
* 図書館のページ		P. 8



大学図書館とコレクションの話

図書館長 近藤 泰弘
KONDO Yasuhiro

私たち人文科学を研究している者にとって、図書館を一番ありがたく思うのは、手元にない重要な書物がそこに所蔵されている時だろう。もちろん、基本的な文献は自分で所有しているのが原則だが、スペースやコストの問題もあるので、何でも持っているというわけにはいかない。まして、研究者に成り立ての学生時代には、本当に図書館はありがたかったものである。

現在のデジタル時代になって様々な文献が電子化されてネットでみることができるようになった。古典日本語を研究している場合の基本文献である『日本国語大辞典』『群書類従』『国史大系』『国歌大観』などのリファレンスもネット上に整備された。とはいえ、電子化されたものはほんのわずかであり、過去の大半の文献は「本」のままである。

学生時代の思い出になるが、日本の古典語を研究していると、いわゆる本文系統の学問、つまり狭義の文献学を勉強する必要がある。『源氏物語』『枕草子』などの古典作品はどれも原本が残っておらず、何度も転写を経た写本しか存在していない。多数残された写本の中のテキストでどれが正しいかを定める本文系統の文献学は、古典語研究には必須の教養である。ところで、日本に伝わった文献学の源流は二つあって、ひとつは清朝考証学からのもの、もうひとつはドイツ文献学からのものである。この両方をとりあえず勉強しないと本文系統の勉強は不十分だ。前者の本文研究の方法を勉強するためにはまず本草書（漢方の薬品の解説書）を読めなくてはならないが、古代中国の

本草書は種類が多い上に、複製書ですらどこでも見られるものではない。また、ドイツ文献学における本文研究のエッセンスは、新約聖書の本文研究に見られるが、この研究にも聖書本文をはじめ、多くの参考文献が必要である。

しかし、学生時代には、大学図書館に行けば、森鷗外が本草学者の伝記を執筆した時に用いた資料が保存されている「鷗外文庫」、医学研究者の土肥慶蔵の収集した「鶚軒文庫」などの医書・薬学書コレクションにより、大量の本草関係の資料をすぐに見ることができた。また、新約聖書のギリシャ語版（ネストレ版）も各種が図書館には所蔵されていた。また、簡単な調べ物には、レクラム文庫もまとまってよく揃っており、バッハの「マタイ受難曲」の歌詞を少し見てみたいというような時には至極便利だった。そのような中で勉強するうちに、書物がいかに大切なものであるかを、身をもって体験することができた。

図書館の蔵書は、もちろん万能ではないが、ここに来れば、その分野のことは相当わかるというような特殊コレクション（まとまった収書）があることが必要だと思う。それがその図書館の個性を形成し、また、利用者にも、その図書館、そして書物そのものへの愛情をはぐくむものだ。本学の図書館にも、メソジスト関係の書物は充実しているが、これからさらによいコレクションを育てていく必要があると思っているわけである。

（文学部教授 日本語文法・古典語情報処理）



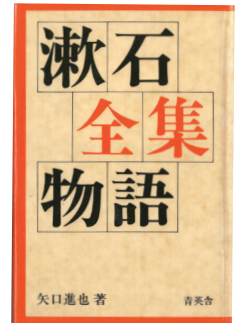
📖 全集について

佐藤 泉
SATO Izumi

今年2016年は夏目漱石の没後100年、来年は生誕150年にあたるため、あちこちで各種大小の漱石フェアが開催され、関連書籍の刊行が続いています。このチャンスに学生のみなさんにも漱石に出会ってほしいと思います。

これまでさまざまな出版社が夏目漱石の全集を出しています。『こゝろ』の版元の岩波書店が没後まもない時期に全集を作り、以後、筑摩書房、集英社、ゆまに書房など、それぞれに特色ある全集を作っています。ついには『漱石全集物語』（矢口進也、1985年、青英舎）という本も書かれました。漱石全集の歴史は全集作りの歴史だと感じます。

私の自宅には角川書店の全集がありました。本文が新字新仮名遣いでしたから、専門的な文学研究にふさわしいものとは言えません。それでも角川版は小説や評論、講演や手紙の類にわたるまで漱石の文章が完全に発表順、ないし書いた順に並んでいたのので、この作家の思考の変容が時系列で理解できました。以後、私はどんな文章でも時系列で並べ直さないと気が済まなくなり、その習性から歴史が大好きになりました。たまたま自宅にあった全集の編み方が研究の発想を決定したことになります。



(相 023.1/Y3-7)
(短 910.28/NA1/136)

(文学部教授 日本近代文学、文学批評史、文化運動史)



📖 三度美味しい本

小林 絹
KOBAYASHI Shiruku

人の小説を読んでいると、なんだか自分も小説を書きたくなるという感覚は、多くの人が一度は体験したことがあるのではないのでしょうか。そこから実際に小説が生まれるにしろ、生まれないにしろ、そういう感覚はとても大切なもののような気がします。今回ご紹介する『女子大生がヤバイ!』



小沢章友著 新潮社
(青 377.9/O11-1)
(相 377.9/O97J)

も、読者に「小説を書きたい!」と思わせ、書き手になることへと誘う本です。

この本に書かれているのは、小説創作の講義で女子大生たちが書いた多種多様な作品と、それらに対するクラスメイトの反応、そしてこの授業の講師である著者の考察です。偽装の友人関係や脳内彼女などのリアルな題材と、女子大生の豊かな想像力が生んだちょっとアブナイ小説を読んでいると、同じく女子大生である私も、「もし私が小説を書いたら……」なんてことを想像しました。

女子大生の作品は、まず小説として面白く、次に現代の女子大生の思考やライフスタイルが浮き彫りになるという点でも興味深いものです。そして、読んでいるうちに自分も書きたくなる、というように三つの味わい方がありますが、この本の魅力です。

(教育人間科学部教育学科3年)



大学生活と図書館

吉田 健三
YOSHIDA Kenzo

大学時代、最も「大学生らしかった時間」は何だっただろうか。

大学の教室、先生の講義、ゼミでの議論、友人との時間、クラブやサークル、思い切り遊んだ時間、飲み会など、人によって答えは様々だろうし、私個人をとってみても、日によって答えは違ってくるだろう。

その中でも、特に思い出されるのは「図書館での時間」である。

「大学時代の思い出は図書館だ」と書くのは、私にとって勇気がいる。私は、読書家ではない。しかし、だからこそ、大学のレポートや卒業論文の課題が出て、図書館で資料を探し、書籍を積み、ページをめくっていくのは、新鮮で特別な体験だった。新聞、雑誌記事、論文誌のバックナンバーは大抵が分厚い冊子体に収められていたので、数本の記事に当たるだけで、「ものすごく勉強した」気分が味わえる。今は、インターネットや本学図書館のデータベースの充実、論文や資料の多くは、パソコンで見ることができる。私が研究するその様は、ネットで遊んでいるのとも変わらない。だが、どのような形であっても図書館、特に大学の図書館は、大学生にとって特別に「らしい時間」を過ごす場であってほしい。そのように願う。

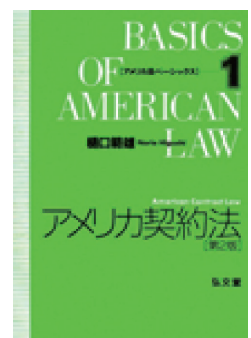
(経済学部准教授 社会保障論、アメリカ政治経済、財政学)

わたしの進路を決めた1冊

佐藤 智晶
SATO Chiaki

進路を決めたというと大袈裟だが、わたしが法律の世界に身を置いたのは、樋口範雄『アメリカ契約法』第2版(弘文堂・2008年)を学部3年生の時に手にしたからである。法学部に入学して以来、ずっと法律を学ぶ意義について悩んでいた時に出会ったのがこの「本」だった。この「本」なしに、今のわたしの人生はないと思う。

法律の勉強に興味を持たず、失望の日々を送っていた私にとって、契約が両当事者のためのものであること、契約法が市場主義経済の根幹として機能していること、さらには法が人々の生活を変容させることをはじめて実感させてくれたのが、『アメリカ契約法』であった。人々が弁護士の力を借りて訴訟を提起し、裁判官が陪審と一緒に判例という形で法を生み出しているアメリカ契約法の歴史には、無味乾燥な「法律の文言」が存在しているというより、「生ける法」をどのように活用するべきかという人々の努力が、現れているように思える。『アメリカ契約法』は、何のために法律を学び、それがどんな意味を持つのかを考えさせてくれる一冊である。学生の皆さんにもぜひ手にしてほしい。人生を変える1冊になるかもしれない。



(青 324.953/H5-2/2)

(法学部准教授 アメリカ法)



「国語の勉強方法を教えてください」からの始まり

大石 進
OHISHI Susumu

貸本屋から定期的に借りた月刊少年漫画雑誌「少年」で、「鉄人28号」、「矢車剣之助」などを読んでいました。小学生低学年の頃です。4年生ぐらいからは、小遣いで買った「少年マガジン」が愛読書でした。

「国語の勉強方法を教えてください」、「何でもいいから本を読みなさい」、中学2年生の時の担任の国語の先生とのやり取りです。「何でもいいから」と言われても、私にとっては、本＝小説→ページ数が多い、登場人物の誰が誰だかわからなくなる（歴史に弱いのもこのせいかも？）→読むのに飽きてしまう、というパターンで読書の習慣はありませんでした。そこで、本屋の本棚を端から端まで眺めて見つけ出したのが、星新一氏のショートショートでした。これは気に入りました。とにかく一話が短いのがいい。登場人物が少ないのもいい。そして、星氏一筋に、文庫本、単行本のほとんどを読んだと思います。ショートショートは、①新鮮な着想 ②完全な筋 ③意外な結末を備えています。

その後の読書歴は、地図、鉄道旅行、ブルーバックス、製造業、活力、技術開発、匠、職人、ものづくり、工作機械技術、機械工学史と趣味と興味に基づくノンフィクションが中心となっています。ただし、筋の通った簡潔さが求められる技術文書の作成においては、ショートショートの要件と共通するところが多々あり、非常に役に立っていると思います。

最後に、口癖ですが、「授業で使った教科書はずっと持っていること。何がどこに書かれているかすぐに見出せるはずだから」。40年以上にもなる黄ばんだ教科書を時々読み返しています。

(理工学部教授 精密工学、機械加工、工作機械)



図書館と本と私

開澤 栄相
HIRAKIZAWA Eisuke

人気のない夕方や休みの日の大学図書館が好きだった。JET STREAM (FM 番組) にならって言えば「図書館のしじまの何と饒舌なことだろう」とでもなろうか。死者の声が聞こえてくるような気もしたし、己の矮小さも思い知らされた。司馬遼太郎記念館の壁一面・天井までに収められた書籍と向き合った時、全書籍が司馬遼太郎の肉体と化してあの名著群を生んだのだと思ったのは私だけではないだろう。

そんな前世代の人間の懐古趣味を置き去りにして、今は電子化された書籍を画面で見る時代になった。将来には、図書館の全蔵書が微小の記憶媒体に保存され、読みたいと思うだけで脳裏に浮かぶようになるかもしれない。そして、敷地や建物や運営費の有効活用を巡って、図書館不要論も台頭するかもしれない。

情報を伝達するという側面だけで見れば、竹簡、石碑、本、電子書籍の間に本質的な差はなく、効率性・利便性を追求すればよい。しかし、漱石の『こころ』は紙の本で読んでも電子書籍で読んでも同じなのだろうか。作家は読み手の媒体を一切考慮せずに書いているのだろうか。掌に感じた文庫本の重量感と画面の文字の無重力感の間にある微妙な差がどういう意味を持つのか、私は未だに分かりかねている。

(社会情報学部教授 国際経済学)

こんなに便利!! AURORA-Search

困ったときには Google よりも AURORA-Search

レポートのための資料を探したい。でもどこから始めたらいいかわからない。。。

使いたいデータベースや雑誌名が分からないと論文をみることはできないのかな。。。

データベースが多すぎて何をを使って検索すればいいのかわからない。。。

そのようなお悩みは AURORA-Search を使って解決しましょう!
OPAC、電子ジャーナル、電子ブック、データベースなどを一度に検索ができます!

はじめに

●図書館ホームページ
(<https://www.agulin.aoyama.ac.jp/>)へアクセス

①ログインする
※ログインを行わないと検索結果が変わってしまうので注意!

②調べる・探すの「AURORA-Search(すべて検索)」タブをクリックする

検索する

③検索キーワードを検索窓(まとめて検索する)へ入力する

④「検索」をクリックする

検索結果 (図書)

図書館所蔵資料は、請求記号が表示されます。
対象資料をクリックすると OPAC へ接続されます。

検索結果 (雑誌論文)

オンラインで本文が見られる資料は、「本文あり」が表示されます。
対象資料をクリックすると本文へ接続されます。

ファセット

チェックを入れるだけで簡単に検索結果の絞り込みができます。

プレビュー

プレビュー
プレビューをクリックすると詳細情報が表示されます。

そのほかにもたくさんの便利な機能があります。詳しくは図書館カウンターへ。
AURORA-Search を使いこなして学習・研究へ役立てましょう!

学部・学科研究室紹介

各学部・学科の研究室では、たくさんの専門の学問分野の資料を所蔵しています。今回のAGUL Iでは、各キャンパスより一つずつ研究室をご紹介します。学部・学科研究室の利用については研究室ごとに条件が異なりますので、事前にご確認ください。

青山キャンパス ～総合文化政策学部 ACL図書室～

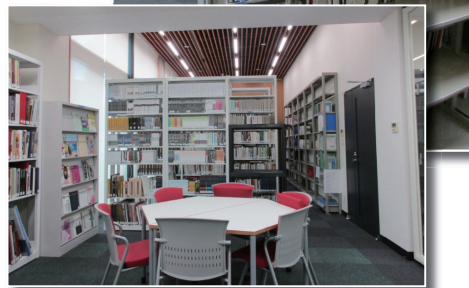
3号館1階にあるACL図書室は2016年春にリニューアル工事をし、合同研究室からガラス越しに図書室が見える明るく開放的なレイアウトになっています。天井近くまである高書架には和書、洋書の順に本が並び、閲覧席の近くには大型本やDVD、新着雑誌のコーナーがあります。閲覧スペースには視聴覚ブースも設けられています。蔵書内容は思想、哲学、宗教、歴史、政治、経済、社会、風俗、建築学、マーケティング、観光、芸術、絵画、漫画、工芸、音楽、演劇と多岐にわたり、総合文化政策学部の学びの幅の広さを表しています。



開室日時（授業実施期間）月～土 9:00～17:00
(11:30～12:30 除く)

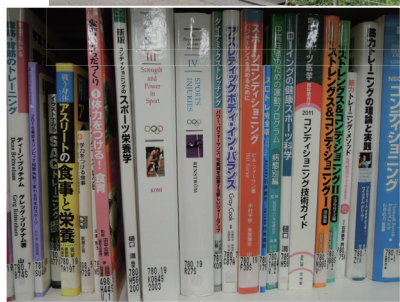
貸出冊数・期間 3冊・2週間
(総合文化政策学部生・院生・教員に限る)

※所属学部生・院生・教員以外は閲覧のみ（複写可）



相模原キャンパス ～体育研究室～

授業や課外活動でスポーツに励む人たちが行き交うA棟アリーナ。その地下一階にある体育研究室（A棟講師控室）には、全部で約3,100冊もの図書資料が置かれています。多種多様なスポーツ専門誌の最新号だけではなく、筋力トレーニングやアスリート向けの食事メニュー本から高度なスポーツ医学・運動医学書まで、多岐にわたるスポーツ関連の資料がずらりと本棚に並んでいます。



さらに、200点を超える視聴覚資料も所蔵しており、その中には過去のサッカーの名試合ビデオなども含まれています。

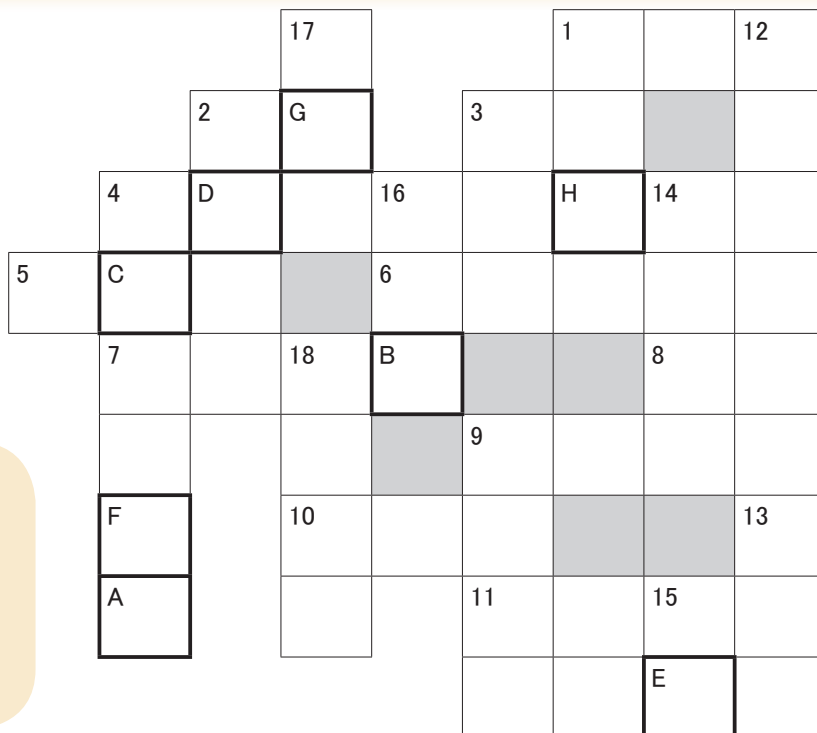
体育研究室の所蔵資料は、AURORA-OPACで検索することができます。また、資料によっては貸出しているものもあります。貸出可能かどうかは、体育研究室に直接お問い合わせください。

開室日時（授業実施期間）月～金 9:00～17:00
(11:30～12:30 除く)

貸出冊数・期間（一部、禁帯出あり）5冊・2週間

クロスワード パズル

太枠の文字を A～H の順に
並べると、青山学院ゆかりの
「人物名」になります。



図書館備え付けの応募用紙に、答えの**人物名・学生番号・氏名**を記入し、**11月30日**までに図書館の応募箱に入れてください。(応募は本学学生に限ります) 抽選で5名の正解者に図書カード(1000円分)をさしあげます!

(ヨコのカギ)

1. 青山学院大学図書館報の誌名は?
2. 奈良公園のおなじみの動物
3. ○○ポジション、○○テンション、反対はロー
4. 学術雑誌が電子化されたもの
5. 香りのある有用植物 ○○○ティー
6. 本を借りるときは○○○○カウンターへ
7. 大好評! 大学・短大図書館共催のコンテスト「情報の○○○○と表現」
8. デジタル画像における、色情報をもつ最小単位の点 英語でピクセル
9. 若いときは○○○より、攻め?
10. 図書館のコピー機はカード式と○○○式
11. 昭和22～24年生まれの人は○○○○の世代

(タテのカギ)

1. ヴェルディ作曲、エジプトとエチオピアの悲恋オペラ
2. 朝刊、夕刊、経済○○○○
3. 『放浪記』を書いた女流文学者 ○○○フミコ
4. コンピュータで検索可能な大量の蓄積情報のこと 今や調べものに欠かせません。
9. 相模原キャンパスにあるのは○○○○記念図書館
12. ロサンゼルスにある日本人街は○○○・トーキョー
13. リオオリンピックでも活躍! 卓球の福原○○さん
14. 秋の味覚(幸水など)を収穫するレジャー
15. 鶴は千年、○○は万年
16. 大学生としての○○○をしよう!
17. 田畑を荒らす鳥を防ぐために立てる竹やわらの人形
18. 論文を作成するために使った○○○○文献は表記するきまり。辞書などは○○○○図書と呼ばれます。

本を選ぶ

選書 & POP 作りツアー

【参加資格】 本学所属の学部生 【募集人員】 10名
【日 時】 11月30日(水)午後
【場 所】 紀伊國屋書店 新宿本店
【応募受付】 11月16日(水)まで本館1階貸出・返却カウンター、または万代2階レファレンスカウンター

学生選書 Week

今年は、電子ブックから読みたい本を選ぶ企画です。
【参加資格】 本学所属の学部生、大学院生、教職員
【期 間】 2016年11月初旬～2017年1月末
【詳 細】 図書館ホームページでお知らせ

リサイクルブックフェア

青山キャンパス

【開催日時】 12月8日(木)～12月14日(水)
平日 / 9:30～21:00 土 / 9:30～20:30
日 / 12:30～18:30
【会 場】 図書館3階グループ学習室B

相模原キャンパス

【開催日時】 12月5日(月)～12月7日(水)
9:30～19:30
【会 場】 図書館1階点字用ブース

詳細は図書館ホームページをご参照ください。

編集後記

AGULIが前号を一区切りとして、この101号から体裁、構成ともにリニューアルされました。より親しみやすい存在にしたいという思いの賜物です。この小さな雑誌が青山学院教職員と学生の皆様を書物の豊かな世界へ誘う架け橋となってくれることを願ってやみません。今号に協力いただいた諸先生方に感謝申し上げます。(館報編集委員長 露崎俊和)

青山学院スクール・モットー 地の塩、世の光 The Salt of the Earth, The Light of the World

青山学院大学図書館報 “AGULI” 第101号 2016年11月1日発行 表紙写真 / 青山学院大学写真研究部
編集 青山学院大学図書館報編集委員会・大学図書館広報担当 TEL.03-3499-1402 FAX.03-3407-4472
発行 青山学院大学図書館 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 <https://www.agulin.aoyama.ac.jp/>